

今や日本は、TPP問題で侃々諤々である。曰く、農業が潰れる、保険制度が、等々と反対若しくは慎重派はその危険性を強調し、推進派は、日本の再生のためには更なる自由貿易体制の構築が必要であると説く。問題は、何れのメリットが大きいのか、その場合のデメリットは克服できるものなのかの判断であろう。資源小国の我が国は、自由貿易の恩恵を最大に享受しているのは事実であり、その拡大は望ましいことである。その場合のデメリットは自由貿易によって打撃を蒙る可能性のある日本の零細小規模農業である。この打撃を回避することは出来ないのか？TPPを奇禍として日本農業の再生が出来るのではないか？ 反って、日本農産物の付加価値が評価され、そこに新たな道が開けるのではないかとも思えるが、果たしてどうなのだろう。

二枚舌だとか、明確でないとか、協議のための議論開始を決断したとかの入り口論でもたもたして、肝心要の議論がなされていないようだ。自民党は等としてどうするのか結論を得ずして、野田首相を批判しているだけだ、それだけでは国民の賛同を得ることは困難だろう。

TPP問題で、あまり議論されなかったことが、日米中の関係である。誤解を恐れずに言えば、多少の犠牲はあっても中国を牽制するためにもTPPに参加すべきである。この様なことをつらつら考えていたが、米国が、アジア重視への戦略転換を行うという意思を明確にし、TPPの持つ政治的な意味合いが明らかになった。

オーストラリアを訪問中のオバマ米大統領は、オーストラリアとの軍事協力関係を拡大するとともにアジア太平洋地域における米国のプレゼンスを高める方針を発表した。大統領は17日にダーウィン豪空軍基地で豪軍兵士ら約2000人を前にして、「我々は(米豪)同盟を深化させる。ここはそのために最適の場所だ」と述べた。

11月18日はASEAN首脳らと会合、19日には米大統領として初めて東アジアサミットに出席する。米国がアジアを最重点地域とみて、TPPを含めて中国を意識した新安全保障政策の実行に乗り出したのは間違いないだろう。



米国が、日本、豪州、及びASEANとの連携を強化して、対中包囲網を構築しようとの思惑は見え隠れしていたが、今般の大統領の演説はそれを明確に示したものと言える。

東アジアサミットにおける首脳宣言でも中国の海洋覇権を牽制することが明らかになった。日本は確かに経済的には、「TPP」と「ASEAN+3」の二つの枠組みに参画することになるが、これからが日本外交の腕の見せ所だろう。

日本がASEANとの共同宣言において、南シナ海の領有権を巡る中国と周辺国との対立を念頭に

「海洋安全保障及び海洋の安全に関する協力の推進・深化」を目指すこと表明した。野田首相は19日、東アジア首脳会議閉幕後に記者会見し、米国がアジア太平洋地域を最重要地域と位置づける新戦略を打ち出したことについて、「米国が関与を深めていこうとするのは歓迎すべきことだ」と評価した。

これらの日本の対応は評価できる。米国の戦略転換の予兆はあったと云えよう。

「中国重視から大転換の米国、この好機を逃すな、中国の侵略を許さないためにASEAN、インドとの強い連携を」 2010.12.13 (月) <http://jbpress.ismedia.jp/articles/-/5042>

本日(11月19日)の報道によれば、クリントン米 국무長官が、12月にミャンマーを訪問するという。経済制裁からの転換であり、中国を意識したものであることは疑いを容れない。

問題は日本がその重要な一翼を担うだけの気概があるかどうかである。普天間問題の早急なる解決は勿論のこと、軍事的負担の大きい米国の肩代わりにも対応しなければならない。当然相応の要求があるだろう。

勿論、徒に中国を刺激し、敵視するものではない、飽く迄も日本と同じ、国際的なルールを順守し、覇権的行動を慎んでくれればよい、国際標準の価値観を共有して欲しいということに尽きる。望むべくもないように見えるが、中国共産党にとっては、共産党独裁の崩壊にもつながりかねず、我が国等の要求には対応できないのかもしれない。

米国のアジア安保戦略の変遷	1950~53年	朝鮮戦争。日本の再軍備を認め東アジア防衛の拠点に
	54年	アイゼンハワー大統領がドミノ理論発表。ベトナム戦争介入の根拠に
	65年	米軍、ベトナムで北爆開始
	69年	ニクソン・ドクトリン発表。泥沼化したベトナム戦争から手を引きアジアへの過剰介入避ける
	72年	ニクソン大統領が訪中。緊張緩和へ
	75年	サイゴン陥落。ベトナム戦争終結
	92年	比スービック基地から米軍撤収。南シナ海に「力の空白」
	2003年	ブッシュ大統領、在外米軍再編で同盟国と交渉を始めると発表。アジア10万人体制見直しへ
	2011年11月	オバマ大統領、オーストラリアで「アジア最優先」打ち出す